

■アシスト 編

1	三島由紀夫「金閣寺」……………	16年度・京都産業大学	4
	金閣の美と人間の生を対比して独自の哲学を構築する青年を描いた小説〔客観1〕		
2	青木 保 「異文化理解」……………	17年度・神戸女学院大学	7
	時間認識の観点から、「異文化理解」を考える〔客観2〕		
3	宇野千代 「幸福」……………	16年度・聖心女子大学	14
	苦しみやつらさをいつ七楽しみとする女性を描いた自伝的小説		
4	辻 征夫 「頭上に毀れやすいガラス細工があった頃」16年度・立命館大学	16年度・立命館大学	20
	詩の持つ力を自分の経験に基づいて読者に語りかける随筆		
5	稲垣栄洋 「植物はなぜ動かないのか」……………	17年度・同志社大学	28
	自然界はポータレスの世界		
6	今井むつみ 「学びとは何か ―〈探究人〉になるために」……………	17年度・明治大学	37
	「アクティヴ・ラーニング」の本質とは		
7	三島由紀夫「小説読本」……………	17年度・西南学院大学	42
	誘惑との戦いに駆り立てられる老狐の姿から人間の本質を考察するエッセイ		
8	小林慶一郎「時間の経済学」……………	18年度・甲南大学	45
	国家という共同体で「自己統治の自由」を実現するために		
9	福岡伸一 「動的平衡2」……………	16年度・佛教大学	52
	地球環境を支える動的平衡と生物多様性〔客観3〕		
10	幸田 文 「季節のうつろい」……………	18年度・南山大学	58
	職人の熟達した仕事と、表現する言葉に払う恭敬の思いを語る随筆		
11	大澤真幸 「自由という牢獄」……………	16年度・学習院大学	64
	「自由」であるがゆえの「不自由」		
12	猪木武徳 「自由の思想史」……………	17年度・駒澤大学	70
	自由を保持する方法とその意義を述べた市場経済論		
13	鈴木謙介「ウェブ社会のゆくえ」……………	18年度・早稲田大学	76
	ウェブ社会における「親密さ」の変化〔客観4〕		
14	渡辺 靖 「〈文化〉を捉え直す」……………	17年度・青山学院大学	81
	新自由主義の論理を超えて		
15	谷口忠大 「人工知能は言語を獲得できるか」……………	18年度・関西学院大学	88
	人工知能はどこまで進歩するのか〔客観5〕		

■実践 編

16	森田誠吾 「明治人もがたり」……………	18年度・日本女子大学	96
	森鷗外の娘森茉莉（マミ）と幸田露伴の娘幸田文（あや）についての随想		
17	中路正恒 「地域学の基本問題」……………	17年度・関西大学	100
	「地域学」といふ試み〔客観6〕		
18	中村雄二郎 「共通感覚論」……………	16年度・立教大学	109
	近代文明の視覚の独走を抑制する五感の組み換えの必要性		
19	丸山眞男 「福沢に於ける『実学』の転回」……………	16年度・中央大学	114
	福沢論における近代精神の理解		
20	坂口安吾 「茶番に寄せて」……………	17年度・早稲田大学	120
	道化文学（喜劇）に対する筆者の見解を述べたエッセイ		
21	堀江敏幸 「バン・マリーへの手紙」……………	18年度・成城大学	124
	幼稚園時代の思い出をもとに時代の思考を批評するエッセイ		
22	國分功一郎 「中動態の世界 ―意志と責任の考古学」……………	18年度・東海大学	130
	能動と受動の概念の限界〔客観7〕		
23	井筒俊彦 「禅仏教の哲学に向けて」……………	16年度・法政大学	137
	色彩排除の根底にある基本的考えを明らかにした文章〔客観8〕		
24	大淵憲一 「攻撃と暴力―なぜ人は傷つけるのか」……………	18年度・上智大学	144
	人間の情動と攻撃の相関について〔客観9〕		

■本年度出題の主要な漢字の読み

（注）出題年度は西暦下2ケタで表しています。 （例）16年度↓2016年度

目次 はしがき

〔本書の特長〕

- ① 本書は、直近の三年間に実施された私立大学の入試問題の中から、選りすぐった問題を収録した、読解トレーニング用の実践問題集です。生徒達に現代文を読む力を身に付けさせたいという思いを持って、実際に高校の教壇に立つ先生方が集まり、検討した上で書いています。
- ② 自学自習できるよう、別冊の【解答考察編】で、正解にいたるまでの考え方を一問一問丁寧に解説し、見やすく記しています。記述の場合は採点基準を記し、自分で採点しやすくしています。

〔効果的な活用法〕

- ① まず本文全体を読んでから問を考えますが、答えは問題に書き込まず、ノートや別の紙に書きます。アシスト編の場合は、内容がわかりにくければ、問と同時に確認問題や補充問題を解くのもいいでしょう。
- ② 解答を確かめ、【考察】を丁寧に読んで理解します。解説と比べてみて、自分の答えと考え方がどう違うのか、ポイントが押さえられているかどうか、よく確かめてください。
- ③ 一ヶ月くらい経ってから、もう一度解いてみます。覚えていても構いません。選択肢のどこが違うのか、説明できるようになっていたら力がついた証拠です。忘れてしまった漢字や語彙などはまた覚え直します。

ここに収められた二十四題の入試問題に繰り返し取り組んで読解力を身につけ、志望校の合格証書を手にすることを願ってやみません。

平成三十年五月

新国語問題集編集委員会

- ▼ 入試問題の難易度を考慮して、アシスト編と実践編の二つに大別した。いずれも改作はしていない。ただし、アシスト編の本文下欄に、次のことを付加した。
- 〔確認問題〕 語句を中心とした基礎知識を問う設問。
- 〔補充問題〕 オリジナルの創作設問。
- 〔形式段落〕 入試問題にはないが、論理的文章（評論）を中心に①・②・③…の番号で示した。
- ▼〔客観1〕～〔9〕は、すべての設問が選択肢形式の問題。
- ▼〔問〕 要旨・主題に関する「問」を中心として、その問題の根幹となる設問に◎印をつけた。
- ▼〔解答欄〕 すべての解答が書き込めるようになっていた。ただし、選択肢問題で記号を○で囲めば済むものには、あえて欄を設けなかった。
- ▼〔別冊・解答考察編〕 設問一つひとつについて、正解にいたるまでの考え方（過程の演習）を詳細に考察している。また、記述式設問には、必要に応じて【評価の基準】を設け、解答点検のポイントを記している。